

○医師の診断を受けて、登所届が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登所のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児（乳幼児）にあっては、3日を経過するまで）
風しん（三日はしか）	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染のおそれがないと認められるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎（はやり目）	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されてから
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過してから
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まってから
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が ^{かいよう} 発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、 ^{かいよう} 普段の食事がとれるようになってから
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	全身状態が良くなってから
感染性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれるようになってから
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、 ^{かいよう} 普段の食事がとれるようになってから
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良くなってから
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し機嫌が良く全身状態が良くなってから
A型肝炎	発症1～2週間前が最も排泄量が多い黄疸発現後1週間経過するまで	肝機能が正常になってから
B型肝炎	B型感染ウイルスが検出されている間	急性の場合は症状が消失し全身状態が良くなってから（キャリア、慢性肝炎の場合は登園の制限はない）
単純ヘルペス感染症	水泡を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり普段の食事ができるようになってから（歯肉口内炎のみであればマスク着用で登園可能）
伝染性膿痂疹（とびひ）	効果的治療開始後24時間	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度になってから
アタマジラミ	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間（10日～14日程度）	駆除を開始してから
伝染性軟属腫（ミズイボ）		搔きこわし傷から滲出液が出なくなり被覆してから